

科目名	一般教養 I											
科目名(英)												
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		稲吉 貴博		
実施年度	2019年度			実施時期		後期		実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	建築工学科2年											
授業概要	就職試験で課されるSPI対策として必要な基礎学力をつける。 また、SPIの基礎的な問題が半分は解けるようになる。											
授業形式	講義: ○			演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				SPI対策として理解するだけでなく時間内に解答できる力を身に着ける						
	○					公式や法則を用いて時間内に算出することができる						
	○	○				算出した数値をもとに、解答の見直しができる						
テキスト・教材 参考図書	SPIテキスト											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	教科内容説明, 割合と比の計算, 課題説明					SPIの特徴を理解する 本日学習した内容の振り返りを行う					
	2	確認テスト, 損益計算, 課題説明					確認テストを時間内に解答できるよう振り返る 課題について取り組み次回授業の準備を行う					
	3	確認テスト, 分割払い, 課題説明					確認テストを時間内に解答できるよう振り返る 課題について取り組み次回授業の準備を行う					
	4	確認テスト, 分割払い, 課題説明					確認テストを時間内に解答できるよう振り返る 課題について取り組み次回授業の準備を行う					
	5	確認テスト, 表の読み取り, 課題説明					確認テストを時間内に解答できるよう振り返る 課題について取り組み次回授業の準備を行う					
	6	確認テスト, 速さ, 課題説明					確認テストを時間内に解答できるよう振り返る 課題について取り組み次回授業の準備を行う					
	7	確認テスト, 集合, 課題説明					確認テストを時間内に解答できるよう振り返る 課題について取り組み次回授業の準備を行う					
	8	中間テスト					中間テスト内容の振り返りをおこなうこと					
	9	確認テスト, 場合の数と順列・組合せ, 課題説明					確認テストを時間内に解答できるよう振り返る 課題について取り組み次回授業の準備を行う					
	10	確認テスト, 確率, 課題説明					確認テストを時間内に解答できるよう振り返る 課題について取り組み次回授業の準備を行う					
	11	確認テスト, 濃度や密度, 課題説明					確認テストを時間内に解答できるよう振り返る 課題について取り組み次回授業の準備を行う					
	12	確認テスト, 濃度や密度, 課題説明					確認テストを時間内に解答できるよう振り返る 課題について取り組み次回授業の準備を行う					
	13	確認テスト, 仕事算・水槽問題, 課題説明					確認テストを時間内に解答できるよう振り返る 課題について取り組み次回授業の準備を行う					
	14	確認テスト, 推論, 課題説明					確認テストを時間内に解答できるよう振り返る 課題について取り組み次回授業の準備を行う					
	15	確認テスト, 推論, 課題説明					確認テストを時間内に解答できるよう振り返る 課題について取り組み次回授業の準備を行う					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中に確認テストを毎授業実施する。 (3)中間テストを1回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		○								60%
	中間テスト	◎		○								20%
	確認テスト	◎		○								20%
履修上の注意	学習した内容を復習することが授業の理解に繋がりますので心がけて下さい。 出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	AutoCAD II									
科目名(英)	AutoCAD practice II									
単位数	4単位			時間数	60時間		担当者	福光 春子		
実施年度	2019年度			実施時期	後期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築工学科 2年									
授業概要	演習を通して、レイアウト空間での印刷スキルの習得及びCAD操作の正確さ、図面の読図能力、応用力の習得を図る									
授業形式	講義: △			演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				建築設計ツールの一つであるAutoCADの機能について学び、必要な機能を選択し使用することができる。				
	○	○				授業を通じて図面の種類を学び、図面と図面の関係性を立体的に捉え作図することができる。				
	○	○				意匠図の作図を通じて部屋の広さや高さを学び、建物の計画に応用することができる。				
	○	○		○		構造図面の作図を通じて木造住宅の構造を学ぶと共に、部材の名称を答えることができる。				
	○	○		○		授業を通して建築図面の作図手順を学び、建築計画時に応用することができる。				
テキスト・教材 参考図書	テキスト:オリジナルプリント 参考図書:超入門 建築製図(市ヶ谷出版)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	鉄筋コンクリート住宅 1階平面図①					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	2	鉄筋コンクリート住宅 1階平面図②					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	3	鉄筋コンクリート住宅 2階平面図①					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	4	鉄筋コンクリート住宅 2階平面図②					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	5	鉄筋コンクリート住宅 断面図①					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	6	鉄筋コンクリート住宅 断面図②					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	7	鉄筋コンクリート住宅 立面図①					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	8	鉄筋コンクリート住宅 立面図②					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	9	鉄筋コンクリート住宅 配置図、レイアウト空間での印刷					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	10	鉄骨造住宅 1階平面図①					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	11	鉄鉄骨造住宅 1階平面図②、鉄骨造住宅 3階平面図①					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	12	鉄骨造住宅 2階平面図②					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	13	鉄骨造住宅 断面図①					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	14	鉄骨造住宅 断面図②、鉄骨造住宅 立面図①					オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)			
	15	鉄骨造住宅 立面図②、印刷					授業内容の復習 データ提出			
評価方法	(1) 練習問題を数回実施する。(2) 授業課題の提出を求める。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	練習問題	○	○				10%			
	課題提出状況				◎		30%			
	習熟度(スピードと正確さ)	◎	◎				50%			
	出席率				○		5%			
	授業態度				○		5%			
履修上の注意	出席が10回に満たない場合、提出課題が未提出の場合は履修単位を与えない。									

科目名	建築環境工学									
科目名(英)	Architectural Environmental Engineering									
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	中村 昇久	
実施年度	2019年度			実施時期	後期			実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	建築工学科 2年									
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、建築計画に役立て、二級建築試験における学科Ⅱ（環境工学）の問題に対応出来るようになる									
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関連する各図を読み解くことができる				
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の特徴と留意事項について説明できる				
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関して計算式を用いて必要な数値を算出することができる				
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の課題点と対策について述べることができる				
テキスト・教材 参考図書	建築環境工学 市ヶ谷出版 オリジナルプリント									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	建築環境工学の役割								
	2	太陽位置と日照・日影の関係					教科書予習する			
	3	日影曲線・日影時間					教科書予習する			
	4	日射量・日射調節					教科書予習する			
	5	光環境・測光量・照度計算					教科書予習する			
	6	明視条件・採光					教科書予習する			
	7	採光による照度計算・採光計画					教科書予習する			
	8	人工照明・照度計算(光束法)					教科書予習する			
	9	色彩の表し方・表色法					教科書予習する			
	10	色彩の効果・色彩計画					教科書予習する			
	11	室内空気汚染物質と許容濃度					教科書予習する			
	12	各汚染物質に伴う必要換気量の計算					教科書予習する			
	13	自然換気の種類と風力換気の計算					教科書予習する			
	14	自然換気・温度差換気の計算・通風					教科書予習する			
	15	機械換気方式・換気計画					期末試験のため今までの振り返りをする。			
評価方法	(1)期末試験結果 (2)授業内での理解度確認テスト (3)宿題・レポート により評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○	○				80%			
	小テスト	○	○				10%			
	宿題・レポート	○	○				10%			
履修上の注意	出席率60%が単位付与条件とする。									

科目名		建築設備 I							
科目名(英)		Building Facilities I							
単位数		2単位		時間数	30時間	担当者	力安		
実施年度		2019年度		実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年		建築工学科 2年							
授業概要		建築に関する基礎的で包括的な専門知識として、また、建築環境・設備分野での技術者として必要な設備計画に関する基礎知識を修得する。							
授業形式		講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)		言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
		○	○				建築設備の役割・種類・構成を説明できる		
		○	○				空気調和方式の種類・特徴を説明できる		
		○	○				空気線図を読み解き、空調負荷について説明することができる		
		○	○				換気設備の目的、必要換気量、回数、方法について説明できる		
		○	○				建築計画における省エネ手法を導き出せる		
テキスト・教材 参考図書		初学者の建築講座「建築設備」市谷出版社							
授業計画		回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
		1	概論・建築設備とは (建築設備の役割・種類と構成)				当日授業に関する復習をすること。		
		2	概論・建築設備とは (種類と構成・建築計画との関わり)				当日授業に関する復習をすること。		
		3	概論・建築設備とは (環境問題と建築設備・省エネルギー・維持管理・更新)				当日授業に関する復習をすること。		
		4	空気調和設備とは(空気調和設備の目的としくみ) 空気調和と室内環境(室内環境基準)				当日授業に関する復習をすること。		
		5	空気調和と室内環境(温熱感覚と評価指標・温冷感指標)				当日授業に関する復習をすること。		
		6	空気の状態を知る (空気線図で用いられる用語・空気線図の使い方)				当日授業に関する復習をすること。		
		7	空気の状態を知る(空調への応用・冷暖房時の空気線図上の動き)				当日授業に関する復習をすること。		
		8	空調負荷の考え方 (空調負荷の概要と条件・冷房負荷・暖房負荷)				当日授業に関する復習をすること。		
		9	空調負荷の考え方 (冷房負荷・暖房負荷・熱負荷の概算値)				当日授業に関する復習をすること。		
		10	空気調和方式の種類・特徴と設備計画 (空気調和方式の種類)				当日授業に関する復習をすること。		
		11	空気調和方式の種類・特徴と設備計画 (熱源方式の種類・空調設備計画)				当日授業に関する復習をすること。		
		12	熱源・熱搬送設備と機器部材 (熱源装置・熱搬送設備、室内ユニット・吹出し口、吸込み口など・空調機)				当日授業に関する復習をすること。		
		13	換気設備 (換気設備の目的・必要換気量と換気回数)				当日授業に関する復習をすること。		
		14	換気設備 (必要換気量と換気回数・換気方法)				当日授業に関する復習をすること。		
		15	排煙設備(排煙設備のしくみ)				当日授業に関する復習をすること。		
評価方法		(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)受講態度(出席状況等)。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
				言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験		◎	○				80%
		受講態度(出席状況等)					◎		10%
		小テスト		◎	◎				10%
履修上の注意		出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	建築構造力学Ⅱ										
科目名(英)	Building Structural Mechanics Ⅱ										
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		古賀 俊光	
実施年度	2019年度			実施時期		後期		実務家教員 担当科目		○	
対象学科・学年	建築工学科 2年										
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要となります。また、天災による建物への被害が起きており、多くの人が建物の構造強度についての関心も強くなっている。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識は重要となります。この授業では、構造力学の基本となる力の考え方を身につける。										
授業形式	講義: ○			演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				応力を算出することができる。					
	○	○				3ヒンジラーメンの反力・応力を計算することができる。					
	○	○				トラスの軸力を図解法で算出することが出来る。					
	○	○				トラスの軸力を切断法で算出することが出来る。					
	○	○				トラスの軸力を節点法で算出することが出来る。					
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	力学Ⅰの復習									
	2	片持ち梁の応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	3	張出し梁の応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	4	単純ラーメンの応力(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	5	単純ラーメンの応力(2)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	6	単純ラーメンの応力 ・ 確認試験1					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	7	片持ち梁系ラーメンの応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	8	3ヒンジラーメン系の反力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	9	3ヒンジラーメン系の応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	10	応力図すべての確認試験2					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	11	トラス1(図解法)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	12	トラス2(切断法)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	13	トラス3(節点法)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	14	トラス ・ 確認試験3					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	15	力学Ⅱの総まとめ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	○	◎				40%				
	小テスト	◎	◎				40%				
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%				
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。										

科目名	建築施工Ⅱ									
科目名(英)										
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	集路 正巳	
実施年度	2019年度			実施時期	後期			実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	建築工学科2年									
授業概要	前期で学んだ施工Ⅰに続き、鉄骨工事以降の建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を理解する。また、建物完成後の業務の概要に関しても学習する									
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標				
	○	○				建築施工の目的と概略を説明できる				
	○	○				施工計画の概要と留意事項を説明できる				
	○	○				施工における工事の内容と留意事項を説明できる				
	○	○				施工における必要な検査事項と活用方法を工事の段階ごとに説明できる				
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築施工(第三版) 市ヶ谷出版社									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	鉄骨工事(概要、工場製作①)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	鉄骨工事(工場製作②)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	鉄骨工事(工場製作③)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	鉄骨工事(工場製作④、現場施工①)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	鉄骨工事(現場施工②)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	鉄骨工事(現場施工③)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	7	鉄骨工事のまとめ、確認テスト①					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと			
	8	屋根工事、防水・シーリング工事					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	9	仕上工事の考え方、左官工事、タイル工事					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	石工事、建具・ガラス工事、金属工事					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	11	内装工事					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	塗装・吹付工事、ユニット工事、断熱工事、外壁工事					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	設備工事(電気、給排水・衛生、空調)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	設備工事(昇降機設備工事)、完成時・完成後の管理					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	15	確認テスト②、期末試験対策					授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)出席状況＋受講態度。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		○	○				50%		
	小テスト		○	○				20%		
	出席状況・受講態度					○		30%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	建築設計製図Ⅳ						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅳ						
単位数	6単位		時間数	90時間		担当者	福田 昌彦
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	建築工学科 2年						
授業概要	グループ設計課題:特殊建築物(共同住宅など) 各グループでプランニングから作図、模型制作などを行い、最終的にプレゼンテーションを実施する。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		特殊建築物(共同住宅など)を課題として、実際の敷地を見学し事例収集などを含めた調査から地域に相応しい建築計画・建築設計のプロセスを学び説明ができる。	
	○	○	○	○		地域や社会に対して建築計画を通じて問題解決や問題提起をするための発想力と表現方法を身につけることができ、プレゼンテーションで説明ができる。	
テキスト・教材 参考図書	彰国社 定番建築製図入門						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 2 3	1、課題説明・サーベイ				締切を確認し計画的に進めてください。	
	4 5 6	2、エスキース				締切を確認し計画的に進めてください。	
	7 8 9	3、エスキース				締切を確認し計画的に進めてください。	
	10 11 12	4、エスキース				締切を確認し計画的に進めてください。	
	13 14 15	5、設計製図				締切を確認し計画的に進めてください。	
	16 17 18	6、設計製図				締切を確認し計画的に進めてください。	
	19 20 21	7、設計製図				締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事	
	22 23 24	8、設計製図				締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事	
	25 26 27	9、模型制作				締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事	
	28 29 30	10、模型制作				締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事	
	31 32 33	11、模型制作				締切を確認し計画的に進めてください。	
	34 35 36	12、各種作業(ブラッシュアップなど)				締切を確認し計画的に進めてください。	
	37 38 39	13、各種作業(ブラッシュアップなど)				締切を確認し計画的に進めてください。	
	40 41 42	14、各種作業(ブラッシュアップなど)				締切を確認し計画的に進めてください。	
	43 44 45	15、プレゼンテーション				締切を確認し計画的に進めてください。	
評価方法	(1)課題の提出内容 (2)課題の提出枚数(締切後は受け取りません) ※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題評価	○	◎	○	○		60%
	提出枚数		◎		○		40%
履修上の注意	①提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない場合 ②出席回数が授業回数の2／3に満たない場合 ①もしくは②にどちらかに該当する場合は単位を与えない						

科目名	造形学Ⅳ						
科目名(英)	Architectural modeling Ⅳ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山内 由美
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	建築工学科 2年						
授業概要	実際の敷地を見学し事例収集などを含めた調査から地域に相応しい建築計画・建築設計のプロセスを学ぶ。 ※集合住宅につき※ また、実務や建築士試験の要素に加え、地域や社会に対して建築計画を通じて問題解決や問題提起をするための 発想力と表現方法を身につける。【主に演習、エスキスチェック形式とする】						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○			前期で学習した設計製図技術を用いて、正確な模型を作成できる	
		○	○	○		グループでスケジュール通りに協同作業を進めることができる	
		○	○	○		作品をプレゼンテーションの形で発表することができる	
		○	○			ポートフォリオ(作品集)を完成させることができる	
テキスト・教材 参考図書	テキスト: 初学者の建築講座 建築製図 参考図書: 建築系学生のための卒業設計の進め方・ラクラク建築模型マニュアル・建築系の雑誌他						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス・課題説明					
	2	現地調査・エスキース①				担当教員のチェックにより手直しが必要な 部分は修正しておくこと	
	3	エスキース②					
	4	エスキース③					
	5	エスキース④					
	6	建築見学会					
	7	図面制作① ・配置図・平面図・立面図					
	8	図面制作② ・断面図・プレゼン準備					
	9	プレゼンテーション・中間講評会					
	10	図面等手直し・模型製作① 中間講評指摘事項の修正、模型制作				担当教員のチェックにより手直しが必要な 部分は修正しておくこと	
	11	模型製作②					
	12	模型製作③、プレゼン準備①					
	13	プレゼン準備②					
	14	プレゼン準備③・課題提出					
	15	プレゼンテーション・講評会					
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○		○		30%
	課題作品		○	○			60%
	提出状況		○		○		10%
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	Photoshop Illustrator 2									
科目名(英)	Photoshop Illustrator 2									
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	松本剛太		
実施年度	2019年度			実施時期	後期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築工学科 2年									
授業概要	Illustratorの基本操作と、業界における重点を学び、それら基礎知識の浸透を図る									
授業形式	講義：△			演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				Illustratorの業界での役割を説明できる				
	○	○				Illustratorによる適切なレイアウト処理ができる				
	○	○				画像の基礎処理を問題なく施せる(文字レイアウト、画像配置など)				
	○	○				Photoshopとの連携を意識した操作・処理ができる				
テキスト・教材 参考図書	情報リテラシー Office2016									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	IllustratorとPhotoshopの基本 ベクトルとラスターの理解					Illustratorのインストール			
	2	図形や線を描く								
	3	オブジェクトの選択と基本的な変形								
	4	色と透明度の設定 CMYK版について								
	5	オブジェクトの編集と合成								
	6	線と文字の設定								
	7	その他有効活用すべき機能								
	8	紙面レイアウト演習1 文字の役割								
	9	紙面レイアウト演習2 段組の活用								
	10	PhotoshopとIllustratorの連携 画像の配置とその機能特性								
	11	Illustrator練習問題1 練習問題の解説								
	12	Illustrator練習問題2 練習問題の解答								
	13	Illustrator練習問題 回答と解説								
	14	Illustrator練習問題3 解説なしでの独力解答								
	15	Illustrator練習問題3 解答と解説								
評価方法	学習問題を小テストとして評価 2種実施、その提出により評価									
	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	小テスト	◎	○				20%			
	宿題・レポート		○		○		20%			
	発表・作品		○	○	○		60%			
履修上の注意	出席率60%以上が単位付与が条件とする									

科目名	就職実務 I B										
科目名(英)	Career Study 1B										
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		各担任	
実施年度	2019年度			実施時期		後期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築工学科 2年										
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する										
授業形式	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる					
	○			○		基本的な面接対応ができる					
		○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある					
	○	○				企業研究の方法を知っている					
		○				学校求人を利用するための条件を知っている					
テキスト・教材 参考図書	学校支給のGCBテキスト 就職活動ガイドブック										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1	企業講話 実践的な課題の提案 *メールアドレスの確認と管理									
	2	就職活動に関する心構え 建築系の仕事とは									
	3	就職活動に関する心構え 業界に必要なサービス精神									
	4	就職活動に関する心構え 必要なスキル									
	5	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション1									
	6	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション2									
	7	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション3									
	8	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション4									
	9	・履歴書の書き方 ・メールアドレスの管理									
	10	・履歴書の書き方 随時添削 ・メールアドレスの管理									
	11	・履歴書提出と添削									
	12	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策									
	13	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策									
	14	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策									
15	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策										
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	
	出席状況						◎				
	受講態度・意欲		○		○						
	課題の提出		○		○						
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする										

科目名		建築計画Ⅳ									
科目名(英)		Architectural Planning Ⅳ									
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	赤星 亜美				
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目					
対象学科・学年		建築工学科 2年									
授業概要		建築計画とは何かを説明できる 既存の建築計画を調査・研究している これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する。									
授業形式		講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				既存の建築計画の調査、研究が出来る					
	○	○				事務所ビルの理解ができ計画が出来る					
	○	○				音楽ホール、劇場の構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる					
	○	○				百貨店、スーパーマーケットの構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる					
	○	○				宿泊施設、駐車場の構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる					
テキスト・教材 参考図書		テキスト：初学者の建築講座 建築計画(改訂版) 参考図書：カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代、コンパクト建築設計資料集成、ホテル・旅館 市ヶ谷出版、「新建築」等の建築雑誌 その他									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	ガイダンス 6-1規模計画と経済効率					予習・復習することを心がける。				
	2	6-2事務所ビル 事務所ビルの変遷					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	3	6-2事務所ビル 事務所ビルの計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	4	6-2事務所ビル 各室計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	5	6-3劇場・音楽ホールの変遷					前回までの授業内容に係る確認テストを実施するの で、復習しておくこと。				
	6	6-3劇場・音楽ホールの計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	7	6-3劇場・音楽ホール 客席・舞台の計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	8	6-4百貨店・スーパーマーケットの変遷					前回までの授業内容に係る確認テストを実施するの で、復習しておくこと。				
	9	6-4百貨店・スーパーマーケット 大規模小売店舗の計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	10	6-4百貨店・スーパーマーケット 売り場の計画・駐車場					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	11	6-5 宿泊施設 定義・種類・分類・機能・基本条件					前回までの授業内容に係る確認テストを実施するの で、復習しておくこと。				
	12	6-5 宿泊施設 構成要素・部門・所要室・規模					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	13	6-5 宿泊施設 ゾーニング・動線計画宿泊施設					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	14	6-5 宿泊施設 6-6 駐車場					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	15	総括 I					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習し ておくこと				
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○		○				80%			
	小テスト	○		○				10%			
	宿題・レポート	○		○		○		10%			
履修上の注意		上記評価及び出席率60%が単位付与条件とする。									

科目名	キャリア教育Ⅰ									
科目名(英)										
単位	2単位		時間数		30時間		担当者		各担任	
実施年度	2019年度		実施時期		後期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築工学科 2年									
授業概要	企業が求める人材を把握し、就職活動を円滑に進めるための意識付けと、求職票・履歴書の具体的な書き方や面接対策など、そのまま就職活動に活かせる実践的な演習を中心に授業を進めていく									
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○		○		自己分析を基に、自己PRをまとめることができる				
	○	○		○		企業の目線を意識した志望動機を書くことができる				
		○				面接時の基本的なマナーが身につく、問題なくふるまうことができる				
	○	○		○		面接官の質問に対し、問題なく受け答えができる				
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	就職活動のための準備 ガイダンス								
	2	求職票の書き方 「自己PR」の書き方					自己の強みと弱みについて自分なりに自己分析しておくこと			
	3	求職票記入 下書き・添削								
	4	履歴書の書き方 「学生時代に力を入れたこと」「志望動機」など					自己の学生時代の経験、また希望企業への志望動機を自分なりに考えておくこと			
	5	求職票受付面接について 概要説明								
	6	求職票受付面接練習 入退室・立ち居振る舞い・おじぎ					授業内で学習したマナーは日常生活の中でも意識して行うこと			
	7	求職票受付面接練習 面接官の視点・第一印象について								
	8	求職票受付面接練習 質問と答え方、正しい敬語の使い方①								
	9	求職票受付面接練習 質問と答え方、正しい敬語の使い方②								
	10	求職票受付面接練習 通して実践練習								
	11	求職票受付面接練習 通して実践練習								
	12	求職票受付面接練習 通して実践練習								
	13	企業研究 実際に合同企業説明会・セミナーに参加					参加する企業について、事業内容、事業規模等事前に調べておくこと			
	14	企業研究 実際に合同企業説明会・セミナーに参加								
	15	いろいろな報告書の書き方 ビジネス文書の作成					学んだ文書の書き方について復習しておくこと			
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	出席状況					◎		60%		
	受講態度・意欲	○		○				30%		
	課題の提出	○		○				10%		
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする									

科目名		検定対策ゼミB(宅地建物取引士試験対策ゼミ)					
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間		担当者	森行 美枝	
実施年度	2019年度	実施時期	後期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	建築工学科3年						
授業概要	宅建試験の合格も視野に、試験の問題演習を通して、建築物を取引する不動産権利取引に関する知識を修得する。それにより、建築物の財産的価値の重要性を認識できる視点を養う。後期は特に重要なポイントを絞り込んだ総合的な演習も盛り込む。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				宅建業の業務内容と役割の特に重要な部分について、関連条文の規定を用いて説明できる	
	○	○				宅地建物取引士の実務における重要事項を条文規定を用いて正しく説明できる	
	○	○				民法の権利義務関係について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%以上を出すことができる	
	○	○				不動産取引手続きに関する問題について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%以上を出すことができる	
					○	宅地建物取引士資格試験合格	
テキスト・教材 参考図書	出る順 宅建士 ウォーク問過去問題集2018年版①～③ 【東京リーガルマインド】						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	用語の定義／免許制度／宅建士制度営業保証金／保証協会／媒介契約等の規制			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること		
	2	重要事項の説明／37条書面 8種制限／業務上の諸規制／監督・罰則 単元テスト			正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと		
	3	報酬／住宅瑕疵担保履行法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること		
	4	制限行為能力者／意思表示／代理時効／不動産物権変動／物権関係			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること		
	5	抵当権／保証・連帯保証／連帯債務債権譲渡／債務不履行と解除／弁済・相殺／売買 単元テスト			正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと		
	6	借地借家法/借地借家法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること		
	7	区分所有法／不動産登記法 テスト		単元	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと		
	8	都市計画／開発許可制度/建築基準法(単体規定・集団規定)／宅地造成等規制法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること		
	9	土地区画整理法／農地法/国土利用計画法／諸法例			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること		
	10	国土利用計画法／諸法例/不動産取得税／固定資産税			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること		
	11	不動産譲渡所得／登録免許税／印紙税／贈与税			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること		
	12	地価公示法／不動産鑑定評価基準 テスト		単元	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと		
	13	住宅金融支援機構／景品表示法/土地／建物／統計			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること		
	14	全国模擬試験①			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること		
	15	全国模擬試験②			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること		
評価方法	(1)単元テスト(2)模擬試験(3)宅地建物取引士資格試験の点数で評価する 成績評価基準は、平均正答率 S(90%以上)・A(80%以上)・B(70%以上)・C(60%以上)・D(59%以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	単元テスト	○	○				40%
	模擬試験	○	○				40%
	宅地建物取引士資格試験					○	20%
履修上の注意	難しい法律用語が多々出てくるので、用語の意味をその都度細かく確認すること						

科目名	数学ゼミⅡB						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	吉田麻美
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	建築工学科 2年						
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				正三角形・二等辺三角形の性質と条件を利用した基本問題が解ける	
	○	○				三角形の合同条件を利用した基本問題が解ける	
	○	○				平行四辺形の性質と条件を利用した基本問題が解ける	
	○	○				三角形・四角形の性質と条件を利用した応用問題が解ける	
	○	○				三角形と四角形を用いた証明問題が解ける	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【演習問題】 三角形と四角形 正三角形・二等辺三角形の性質と条件				解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。 また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。	
	2	【演習問題】 三角形と四角形 直角三角形の合同条件					
	3	【演習問題】 三角形と四角形 平行四辺形の性質と条件					
	4	【演習問題】 三角形と四角形 特別な平行四辺形					
	5	【演習問題】 三角形と四角形 面積が等しい三角形					
	6	【演習問題】 三角形と四角形 空間図形の中の三角形と四角形					
	7	【演習問題】 三角形と四角形 証明問題まとめ					
	8	【演習問題】 三角形と四角形 総合復習・まとめ					
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		60%
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	BIM 専攻ⅡB(選択)									
科目名(英)	Building Information ModelingⅡB									
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	道脇 力			
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	○			
対象学科・学年	建築系2年共通									
授業概要	・課題の制作を通じた実践的な表現技術の習得。 ・各用途の建築計画的理解と表現。									
授業形式	講義:		演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○	○			ゾーンツールを使ってポリウムスタディができる。				
			○	○		BIMワークフローにより効率よく設計ができる。				
		○	○			BIMを活用したプレゼンテーションができる。				
テキスト・教材 参考図書	木造住宅入力ガイド(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	課題:複合ビル「制作②」					情報、資料収集を行うこと			
	2	課題:複合ビル「制作③」					情報、資料収集を行うこと			
	3	課題中間報告(発表)					発表資料の確認を行うこと			
	4	課題:複合ビル「制作④」					タイムスケジュールの確認を行うこと			
	5	課題:複合ビル「制作⑤」					タイムスケジュールの確認を行うこと			
	6	課題:複合ビル「制作⑥」					タイムスケジュールの確認を行うこと			
	7	課題:複合ビル「制作⑦」					必要提出資料の確認を行うこと			
	8	課題プレゼンテーション(発表)「プレゼン資料提出」					必要提出資料の確認を行うこと			
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	発表・作品		◎		○		50%			
	課題提出		◎		○		50%			
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。									